

# KI News & Topics

## Irregular Newsletter vol,15



大木記念女性のための菊池がんクリニック・ストレスケアセンター  
〒359-1133 埼玉県所沢市荒幡111-1 Tel/04-2928-7311 Fax/04-2928-7306

### 話題のがん遺伝子検査

#### 遺伝性乳がんと卵巣がんのBRCA1/2がん遺伝子検査

今年の5月14日の米ニューヨークタイムズ紙に、ハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーさんの「My Medical Choice」という記事が掲載されたことは記憶でしょうか？

その記事によると、ジョリーさんの母親は約10年間で闘病し56歳で亡くなり、ジョリーさん自身もその後、乳がんと卵巣がんの発症リスクに関連する「BRCA1」という遺伝子の変異があることがわかったそうです。さて、この「BRCA1遺伝子」とは？

このBRCA1という聞き慣れない言葉。遺伝性乳がんや卵巣がんなどのような関係があるのでしょうか。



乳がんや卵巣がんが多く見られる家系について調べた研究のよって、乳がんや卵巣がんの発症と関連している2種類の遺伝子が見つかり、それぞれBRCA1遺伝子、BRCA2遺伝子と名づけられました。乳がんの5〜10%、卵巣がんの10〜15%は遺伝的な要因が強く関与して発症していると考えられ、遺伝性乳がん患者さんの40〜45%が、BRCA1/2遺伝子の変異によるものだそうです。BRCA1遺伝子またはBRCA2遺伝子に病的変異があ



ると乳がんや卵巣がんを発症するリスクが高くなるという場合があります。アンジェリーナ・ジョリーさんの場合は「BRCA1遺伝子」に異常が見つかり、医師から「乳がんになる確率が87%、卵巣がんになる確率が50%」と説明を受け、乳房切除手術を決めたそうです。これにより、乳がんになる確率は5%以下に減ったとのことです。



当院ですでに、がん遺伝子検査を実施していますが、これは先天的にがんになりやすい遺伝子を持つているかどうかを調べる検査ではなく、現時点での遺伝子の状態が病的変異を起していないか

どうかを調べる検査であり、BRCA1/2遺伝子検査とは違います。

がんは一般的に、遺伝子が生活習慣等によって傷つけられたり、生活環境や加齢によって変異が起って発症するものです。



遺伝性乳がんと卵巣がんのBRCA1/2遺伝子検査は、親から子へ遺伝する確率の高い病的変異のある遺伝子を持っているかどうかを調べる検査です。現在がんを患っていない方も、親族に乳がん・卵巣がんの発症が多く、将来自分も...といった不安をお持ちの方は少なからずおられるのではないのでしょうか。そういう意味で、この遺伝子検査は不安解消の役割を果たしてくれるかもしれませんし、がん予防の先手を打つ上でも意味があるかもしれません。

ただ、BRCA1/2遺伝子を保因していることが分かっても、がんを発症する時期まではわかりませんし、また、必ず乳がん・卵巣がんになるとはかぎりません。遺伝子を保因しているなくても、がんになるリスクは平等

にあると言えるでしょう。

ジョリーさんの場合は、自分の子供たちのために早死にはできないという大きな動機がありました。そのための決断だったのでしよう。しかし彼女の主治医が「すべての女性に正しい選択とは限らない」と言っているように、誰にでも有効な手段ではないと思いますが、医学の進歩が、新たな選択肢を広げたとは言えるでしょう。



このたび菊池がんクリニックでも、この遺伝性乳がんと卵巣がんのBRCA1/2遺伝子検査を実施することになりました。詳しくは当クリニックのホームページをご覧ください。検査をご希望される方は、受付までお申し込みください。

